令和５年度

富士山麓外来植物等調査業務委託

報　告　書

（抜粋）

令和６年１月

株式会社 環境アセスメントセンター

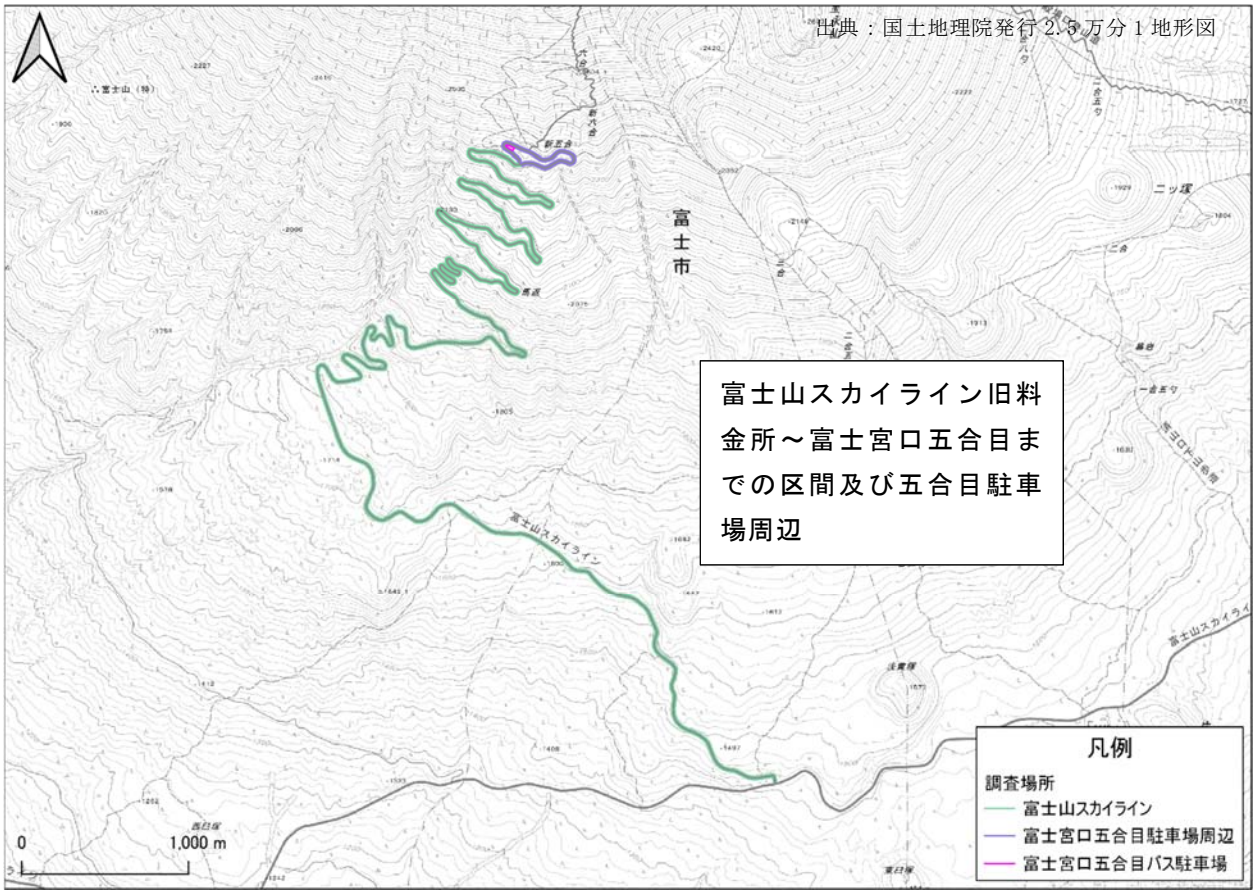

図 1.4.2　調査場所位置図（詳細図）

図 1.4.3　調査場所位置図（詳細図）

表 1.7.2　外来植物選定基準

<table>
<tr><th>基準</th><th colspan="3">指定・選定内容</th></tr>
<tr><td>特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平 16 年 6 月 2 日法律第 78 号)(最終改正:令和 4 年 6 月 17 日号外　法律第 68 号)
【外来生物法】</td><td colspan="2">特定外来生物
（最終更新：令和 5 年 9 月 1 日）</td><td>外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもの。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）」の公表について(お知らせ).環境省.平成 27 年 3 月 26 日,
https://www.env.go.jp/press/100775.html,(参照 2023-4-27).
【生態系被害防止外来種リスト】</td><td rowspan="2">定着を予防する外来種(定着予防外来種)</td><td>侵入予防外来種</td><td>国内に未侵入の種。特に導入の予防、水際での監視、バラスト水対策等で国内への侵入を未然に防ぐ必要がある。</td></tr>
<tr><td>その他の定着予防外来種</td><td>侵入の情報はあるが、定着は確認されていない種。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)</td><td>緊急対策外来種</td><td>「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方^{注 1)} に基づき、被害の深刻度に関する基準①～④のいずれかに該当することに加え、対策の実効性、実行可能性として⑤に該当する種。対策の緊急性が高く、特に、各主体がそれぞれの役割において、積極的に防除を行う必要がある。</td></tr>
<tr><td>重点対策外来種</td><td>「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方^{注 1)} に基づき、被害の深刻度に関する基準として①～④のいずれかに該当する種。甚大な被害が予想されるため、特に、各主体のそれぞれの役割における対策の必要性が高い。</td></tr>
<tr><td>その他の総合対策外来種</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">適切な管理が必要な産業上重要な外来種（産業管理外来種）</td><td>産業又は公益的役割において重要で、代替性がなく、その利用にあたっては適切な管理を行うことが必要な外来種。種ごとに利用上の留意事項を示し、適切な管理をよびかける。</td></tr>
</table>

注 1）緊急対策外来種、重点対策外来種における対策の優先度の考え方

（被害の深刻度）

①生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大

②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い

③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い

④人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対し甚大な被害を及ぼす

（対策の実効性、実行可能性）

⑤防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る。

3.2 外来植物

現地調査で確認した外来植物は 4 科 8 種であった。外来植物一覧を表 3.2.1 に示す。なお、詳細な確認地点情報及び個体及び確認環境の写真は資料編に整理した。

今年度確認された外来植物の中で、最も個体数が多かった種は、セイヨウタンポポ（5220 個体）であり、次いでオオアワガエリ（676 個体）、ハルガヤ（228 個体）、ヒメジョオン（141 個体）の順であった。カモガヤ、オニウシノケグサ、ハルザキヤマガラシ、エゾノギシギシは個体数が少なく、散発的な出現であった。

表 3.2.1　外来植物確認状況一覧

科名	種名	選定基準		確認状況		調査場所					
		外来生物法	生態系被害防止外来種	地点数	個体数	1	2	3	4	5	6
イネ	ハルガヤ		その他	8	228					●	●
イネ	カモガヤ		産業	2	15		●		●		
イネ	オニウシノケグサ		産業	6	6	●					
イネ	オオアワガエリ		産業	124	676	●	●				
アブラナ	ハルザキヤマガラシ		その他	1	5	●					
タデ	エゾノギシギシ		その他	1	1	●					
キク	ヒメジョオン		その他	68	141	●			●	●	●
キク	セイヨウタンポポ		重点	1488	5220	●	●	●	●	●	●
4 科	8 種	0 種	8 種	1698	6292	6 種	3 種	1 種	3 種	3 種	3 種

注 1）選定基準
- 外来生物法：特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号）
- 生態系被害防止外来種：我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）（平成 27 年 3 月）

重点：総合的に対策が必要な外来種（総合対策外来種）　重点対策外来種
その他：総合的に対策が必要な外来種（総合対策外来種）　その他の総合対策外来種
産業：適切な管理が必要な産業上重要な外来種（産業管理外来種）

注 2）調査場所の番号は表 1.7.3 に対応する。

ハルガヤ　令和 5 年 5 月 30 日撮影
カモガヤ　令和 5 年 5 月 30 日撮影
オニウシノケグサ　令和 5 年 7 月 7 日撮影
オオアワガエリ　令和 5 年 7 月 7 日撮影
ハルザキヤマガラシ　令和 5 年 7 月 11 日撮影
エゾノギシギシ　令和 5 年 5 月 16 日撮影
ヒメジョオン　令和 5 年 9 月 1 日撮影
セイヨウタンポポ　令和 5 年 9 月 12 日撮影

写真 3.2.1　現地調査で確認した外来植物

表 3.2.2　種の解説と確認状況

種名	ハルガヤ（イネ科）
選定基準	外来生物法：- 生態系被害防止外来種リスト：その他の総合対策外来種
種の解説	多年草。高さ 0.7m。茎は叢生して直立し群生する。秋から春に発生し、花期は 5-7 月。種子と根茎により繁殖する。全草にクマリンを含み、芳香がある。
分布	明治初年に入り、北海道～九州、四国に分布。寒冷地に多い。
生育環境	草地、放牧地、路傍、荒地、草地、河原、森林に生育し、山地にまでみられる。日当たりの良い所を好む。
特に問題になる地域や環境	里草地や山地草原。
確認状況	御殿場口新五合目駐車場周辺で 1 地点 5 個体、御殿場口新五合目駐車場で 7 地点 223 個体を確認した。確認地点の環境は日当たりの良い草地であった。

令和 5 年 5 月 30 日撮影

解説出典）環境省.我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト　掲載種の付加情報（根拠情報）　＜植物＞,https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html,（参照 2024-01-22）.

図 3.2.1　ハルガヤの確認位置図

表 3.2.3　種の解説と確認状況

種名	カモガヤ（イネ科）
選定基準	外来生物法：- 生態系被害防止外来種リスト：産業管理外来種
種の解説	多年草。高さ 0.4-1.5m。開花期は 5-6 月。種子の生産量は多く、風、雨、人間、動物に付着して運ばれる。根茎により繁殖する。
分布	北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。
生育環境	畑地、樹園地、路傍、荒地、土手、草地、河川敷、林縁、湿地等に生育する。日当たりの良い温暖地で、肥沃な所を好むが、環境適応性は幅広い。耐陰性が強いことが特徴である。
特に問題になる地域や環境	山地草原。
確認状況	富士宮口五合目駐車場周辺で 1 地点 5 個体、富士公園太郎坊線で 1 地点 10 個体を確認した。確認地点の環境は砂礫地や草地であった。

令和 5 年 5 月 30 日撮影

解説出典）環境省.我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト　掲載種の付加情報（根拠情報）　＜植物＞,https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html,（参照 2024-01-22）.

図 3.2.2　カモガヤの確認位置図

表 3.2.4　種の解説と確認状況

種名	オニウシノケグサ（イネ科）
選定基準	外来生物法：- 生態系被害防止外来種リスト：産業管理外来種
種の解説	多年草。茎は叢生して直立し高さ 50-200cm。開花期は 6-8 月。近縁種のヒロハウシノケグサとは葉耳に縁毛があることで区別できる。
分布	明治に導入され、北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。亜高山帯の自然公園にも侵入。
生育環境	牧草地、市街地、運動場、庭、路傍、荒地、河原、林縁等に生育する。日当たりの良い、肥沃で水分の豊富な所を好む。
特に問題になる地域や環境	里草地、河川堤防などの半自然草地、亜高山帯の草原。
確認状況	富士山スカイラインで 6 地点 6 個体を確認した。確認地点の環境は路傍、草地であった。

令和 5 年 7 月 7 日撮影

解説出典）環境省.我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト　掲載種の付加情報（根拠情報）　＜植物＞,https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html,（参照 2024-01-22）.

図 3.2.3　オニウシノケグサの確認位置図

表 3.2.5　種の解説と確認状況

種名	オオアワガエリ（イネ科）
選定基準	外来生物法：- 生態系被害防止外来種リスト：産業管理外来種
種の解説	多年草。高さ 0.5-1m。開花期は 6-8 月。茎の基部節間が肥大した球茎により繁殖する。
分布	国内へは明治初期に入り、北海道、本州、四国、九州に分布する。
生育環境	畑地、樹園地、路傍、荒地に生育する。冷涼で多湿の気候を好み、肥沃な日当たりの良いところに多い。
特に問題になる地域や環境	亜高山帯や山地の草原。
確認状況	富士山スカイラインで 121 地点 661 個体、富士宮口五合目駐車場周辺で 3 地点 15 個体を確認した。生育地点の環境は日当たりの良い草地であった。

令和 5 年 7 月 7 日撮影

解説出典）環境省.我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト　掲載種の付加情報（根拠情報）　＜植物＞,https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html,（参照 2024-01-22）.

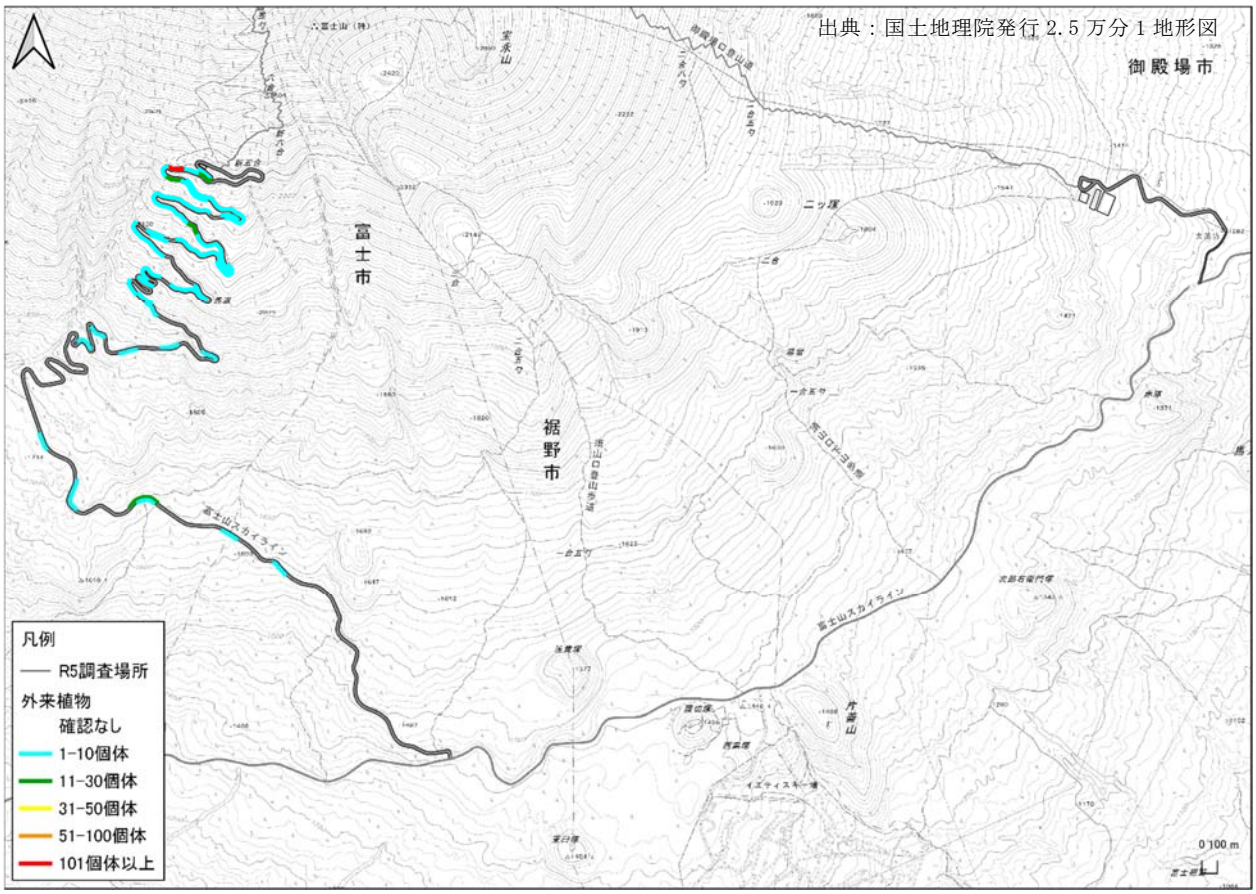

図 3.2.4　オオアワガエリの確認位置図

表 3.2.6　種の解説と確認状況

種名	ハルザキヤマガラシ（アブラナ科）
選定基準	外来生物法：- 生態系被害防止外来種リスト：その他の総合対策外来種
種の解説	越年草～短命な多年草。高さは 20-90cm。花期は 5 月。長角果は風、雨、動物、人間により伝播される。根茎により繁殖する。
分布	日本へは明治時代末年に渡来、1960 年頃に野生化、北海道、本州、四国、九州に分布。
生育環境	川岸、用水路端、畦畔、牧草地、畑地、水田、荒地、道端のほか、山地の林道沿いにもみられる。冷涼で日当たりがよく、湿った肥沃地を好む。
特に問題になる地域や環境	亜高山帯、河川敷。
確認状況	富士山スカイラインで 1 地点 5 個体を確認した。確認地点の環境はイタドリなどが生育する草地であった。

令和 5 年 7 月 11 日撮影

解説出典）環境省.我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト　掲載種の付加情報（根拠情報）　＜植物＞,https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html,（参照 2024-01-22）.

図 3.2.5　ハルザキヤマガラシの確認位置図

表 3.2.7　種の解説と確認状況

種名	エゾノギシギシ（タデ科）
選定基準	外来生物法：- 生態系被害防止外来種リスト：その他の総合対策外来種
種の解説	多年草。高さは 0.5-1.3m。花期は 6-9 月。痩果は風、雨、飼料に混入して伝播される。根茎による繁殖力が強い。周年にわたって発生、生育し、耐寒性が強い。
分布	国内へは明治中期頃に渡来。北海道、本州、四国、九州に分布する。
生育環境	牧草地、樹園地、芝地、畑地、路傍、川岸、荒地、林地に生育する。耐寒性が強いため、亜高山帯の自然公園などにも侵入する。
特に問題になる地域や環境	亜高山帯の自然草原や湿地、ノダイオウなどの在来ギシギシ類の生育地周辺。
確認状況	富士山スカイラインで 1 地点 1 個体を確認した。 確認地点の環境は路傍であった。

令和 5 年 5 月 16 日撮影

解説出典）環境省.我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト　掲載種の付加情報（根拠情報）　＜植物＞ ,https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html,（参照 2024-01-22）.

図 3.2.6　エゾノギシギシの確認位置図

表 3.2.8　種の解説と確認状況

種名	ヒメジョオン（キク科）
選定基準	外来生物法：- 生態系被害防止外来種リスト：その他の総合対策外来種
種の解説	一年草。高さ 0.3-1.5m。茎は直立し淡緑色であらい毛がまばらに生え、中心部に白色の髄があり中空でない。根生葉は長柄があって円形に近く大きな深い鋸歯があり、花時には消失する。花期は 6-10 月。痩果は、風、雨、動物、人間により伝播される。根茎により繁殖する。
分布	国内へは江戸時代末期に渡来、明治初年には広く分布。北海道～九州に分布。
生育環境	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。土壌の種類を選ばない。低地から高山地帯まで生える。
特に問題になる地域や環境	山地や亜高山帯の草原。
確認状況	富士山スカイラインで 32 地点 96 個体、富士公園太郎坊線で 11 地点 14 個体、御殿場口新五合目駐車場周辺 9 地点 15 個体、御殿場口新五合目駐車場 16 地点 16 個体を確認した。確認地点の環境は路傍、草地であった。

令和 5 年 9 月 1 日撮影

解説出典）環境省.我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト　掲載種の付加情報（根拠情報）　＜植物＞,https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html,（参照 2024-01-22）.

図 3.2.7　ヒメジョオンの確認位置図

表 3.2.9　種の解説と確認状況

種名	セイヨウタンポポ（キク科）
選定基準	外来生物法：- 生態系被害防止外来種リスト：重点対策外来種
種の解説	多年草。高さは 10-40cm。花期は 3-5 月。単為生殖により結実する。痩果は風、雨、動物、人間などにより伝播される。根茎切片による繁殖力は強く、どの部分の切片からも出芽する。
分布	北海道～九州、琉球、小笠原に分布する。
生育環境	市街地、道端、空き地、畑地、牧草地、芝地、樹園地、川岸、山地、高山の駐車場まで生育する。
特に問題になる地域や環境	自然草原や高山。
確認状況	富士山スカイラインで 1119 地点 4618 個体、富士宮口五合目駐車場周辺で 71 地点 126 個体、富士宮口五合目バス駐車場で 13 地点 70 個体、富士公園太郎坊線で 100 地点 201 個体、御殿場口新五合目駐車場周辺で 17 地点 35 個体、168 地点 170 個体を確認した。確認地点の環境は路傍や草地であった。5～9 月調査時に開花を確認した。

令和 5 年 9 月 12 日撮影

解説出典）環境省.我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト　掲載種の付加情報（根拠情報）　＜植物＞,https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html,（参照 2024-01-22）.

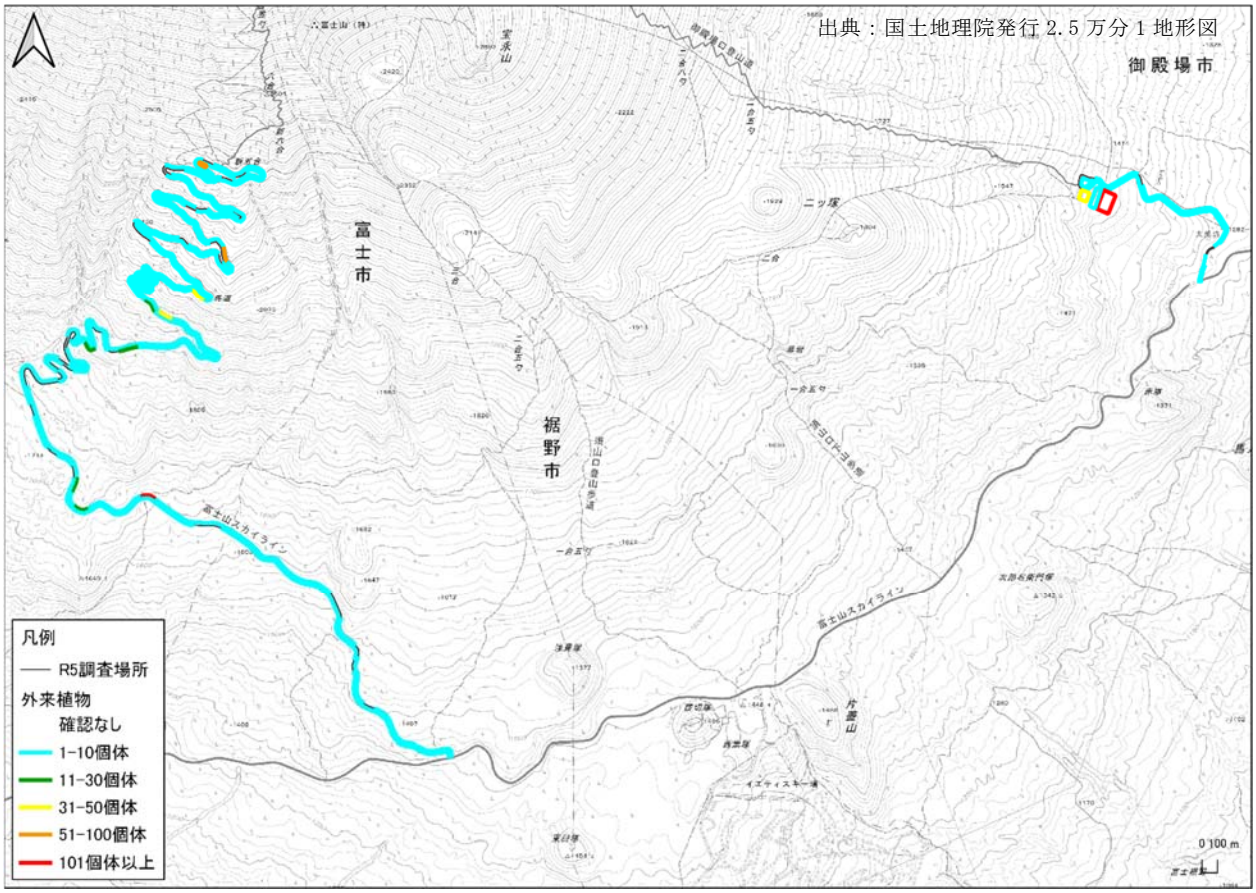

図 3.2.8　セイヨウタンポポの確認位置図